

# 週刊 武四郎

第37号

2018年(平成30年)12月19日(水)  
発行・松阪市

●毎月第三週は、  
松浦武四郎のお友達に  
ついてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

## へまムシヨ入道

みなさんは子供の頃、悪戯描き(いたずらづか)にへへのへのもへじを描いたことがありますでしょうか。

昔は、へまムシヨ入道」というのをよく描いたそうです。こちらは文字によってお坊さんの横向きの姿が出来上がりま

す。へまムシヨは、ヒマムシヨ……へま間虫入道」という妖怪がその由来ともいいます。さて現在、松阪の松浦武四郎記念館には、このへまムシヨ入道」の描かれた軸が残されています。描いたのは武四郎さん

の大親友、鈴木鷺湖(すずき らうこ)という絵師でした。鷺湖は花鳥風月など美しい絵を描く人として知られていた

ので、先年千葉市美術館でその展覧会があった時、武四郎記念館にあるこの鷺湖のへまムシヨ入道」は珍品として貸し

出され展示されました。絵師の悪戯描きは、やっぱりなかなか風流なものです。さて、この鈴木鷺湖の息子も

絵師になりました。石井鼎湖(いしゐ たいこ)といいます(三浦乾也(みづの けんや)の養家を継いだため、鼎湖は石井姓に)。彼は大蔵省造幣局(ざうへいきょく)に勤め、お札の絵を描いたりしました。本

当はお役所勤めをやめて筆一本で生きていきたかったのでしよう

が、彼は父鷺湖や武四郎さんの親友である三浦乾也(みづの けんや)の養子になっていたため(二十号でもご紹介したとおり)、乾也は才人

ですが終生お金には不自由していましたので、鼎湖は養父のために宮仕えをなかなかやめられ

ませんでしたが、この鼎湖の息子がまたまた画家となる石井柏亭(はくてい)と石井鶴三(つるぞう)です。柏亭は洋画家・版画家として名をなし、鶴三は挿絵画家として一世を風靡(ふうび)しました。吉川

英治の『宮本武蔵』などの挿絵を担当したのがこの鶴三です。柏亭の本名は満吉(まんきち)といいますが、それは初孫を喜んだ義祖父乾也(けんや)によってつけられた名でし



▲へまムシヨ入道図 鈴木鷺湖画  
(松浦武四郎記念館蔵)

**松浦武四郎** (1818～1888)  
三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

